

第2章

第三次住民福祉活動計画

(マキノ、今津、朽木、安曇川、高島、新旭)

住民福祉活動計画の策定について

住民福祉協議会と住民福祉活動計画の経緯

2009年、中学校圏域6地域で第一次住民福祉活動計画を策定するにあたり、各地域で活躍されているボランティア、NPO、当事者団体、区・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員会、福祉関係団体、まちづくり関係者、福祉施設・事業所等の関係者に呼びかけ「住民福祉ネットワーク会議」が設置されました。各ネットワーク会議で議論を重ねた結果、それぞれに特徴のある素晴らしい地域版の第一次住民福祉活動計画（2010～2014年度）が完成しました。

計画は完成して終わりではなく、そこからがスタートです。計画策定に携わった住民福祉ネットワーク会議の参加者が中心となって、住民福祉活動計画の推進組織として2010年度に6地域の住民福祉協議会が誕生しました。個人、団体に関わらず「自分たちのまちを誰もが住みやすいまちにしていこう」という気持ちを持った、多様な分野、立場で活動する住民のネットワーク型組織として、出入り自由でオープンな組織づくりをおこない、少しづつ共感する仲間が増えています。

第二次住民福祉活動計画（2015～2019年度）は、それまでの5年間の住民福祉協議会の活動を振り返りつつ、10年後の自分たちの暮らすまちの理想の姿について「ウイッシュポエム」を作り、その未来のビジョンを達成するための5年計画として策定されました。

第三次住民福祉活動計画（2020～2024年度）は、第二次計画で話し合ったビジョンの理念、方向性を踏襲しながらも、現代の地域課題に即した活動を自分たちの手で生み出していこうという意思のもとで、それぞれの住民福祉協議会が協議を重ね、新たな5年の計画として策定されました。

住民福祉活動計画に基づく多様な取り組みとネットワークづくりは、主に3つの機能で言い表せます。様々な人が対等な立場で「話し合う」（協議の場）、分野や立場を越えて「つながる」（ネットワーク）、必要な活動や資源は柔軟な発想で「生み出す」（開発）の3つの機能を発揮し、制度の枠や専門職だけでは困難であった取り組みが住民主体で広がっています。

住民福祉協議会と住民福祉活動計画の一覧

地域	住民福祉協議会の名称(愛称)	計画の名称	ページ
マキノ	マキノぬくもり福祉ネットワーク	ぬくもり福祉プラン	18P
今津	今津ふくしの会	あいあいプラン	22P
朽木	朽木住民福祉協議会	あいの郷プラン	26P
安曇川	安曇川住民福祉ネットワーク	つながり3S プラン	30P
高島	高島住民福祉ネットワーク	共生の高島(まち)	34P
新旭	新旭住民福祉協議会	新旭やすらぎプラン	38P

マキノ住民福祉活動計画 「ぬくもり福祉プラン」



「マあるいは 忍むやさしく ぬくもりのまち マキノを基本理念に」
マキノぬくもり福祉ネットワーク 代表 伊吹 初美

第2次計画以降、ぬくもりひろばでの活動を地域で認知していただき、区・自治会の福祉推進委員会活動の支援、小地域での出前地区ボラセン活動、学校の空き教室を活用した地域の方々との交流活動等を行い、行政や福祉の専門職、ボランティアの方々との繋がりも深まって参りました。

今回、第3次計画策定にあたり過去5年間を振り返ってみると成果が出ていた所と、手付かず状態の所が明確になってきました。継続して取り組む目標、新たに取り組む目標を掲げ、積み残しの所は若い人たちの思いに寄り添えるように中学生・高校生の方々にアンケートや福祉学習の機会を通して沢山の意見を聞くことができ、計画に反映しています。

4つの柱を設け、①子ども達があいさつをきっかけに地域の方と繋がれる、②気軽に相談できる場でサポートできれば、③高齢者の活躍の場を増やしたい、④集落や事業所を巻き込んだ助け合える街づくりを目指したいという思いを込めて作りました。

第3次マキノ住民福祉活動計画はマキノ地域の住民の代表として、新たに策定委員としてご参加いただきました方々と共に5年先のマキノがもっといい街になっていることを願って作られたものです。この計画でマキノ地域の皆さんと共に歩んで参りたいと思っています。マキノぬくもり福祉ネットワークは、どなたでも参加できる組織です。皆様のご参加、ご協力を心よりお待ちしております。

【※マキノぬくもり福祉ネットワーク（住民福祉協議会）、ぬくもりひろば（地区ボランティアセンター）】

策定メンバー（◎マキノぬくもり福祉ネットワーク代表 ○副代表、所属は2019年就任当初）

名前	所属	名前	所属
◎伊吹 初美	マキノ民生委員児童委員協議会	中川 和彦	マキノ西小学校 校長
○水谷 芳純	ボランティアグループグリーンハート	赤崎 太一郎	マキノ老人クラブ連合会事務局
青谷 ゆう子	マキノ民生委員児童委員協議会	植村 祐太	
青井 淳	社会福祉法人ゆたか会 さわの風	前川 甚士	マキノ病院 事務長
小田 由美子		谷口 エツ子	マキノ赤十字奉仕団 委員長
川添 宏司	高島市シルバー人材センター	谷口 静枝	マキノ赤十字奉仕団 副委員長
國枝 洋輔	高島市警察署 蝶口警察官駐在所	正田 妙子	マキノ赤十字奉仕団
下司 小百合	マキノ児童館 保育士	高岡 富二江	マキノ赤十字奉仕団 北分団長
菖蒲 洋介	NPO 法人 和のどか	中川 恵美子	
高屋 博之	辻区 区長	岡本 里子	社会教育指導員
谷口 きよみ		狩野 之彦	社会教育指導員
谷口 良一	高島市地域学校協働活動推進員	前河 康史	高島市役所 マキノ支所
野崎 律子	マキノ赤十字奉仕団	前川 華澄	高島市役所 健康推進課
松村 伊久雄	社会福祉法人たかしま会 藤の樹工房	杉本 留美	高島市役所 地域包括支援課
峯森 恵子	マキノ民生委員児童委員協議会	嬉野 有美	高島市社会福祉協議会在宅福祉課
吉川 繁三		松本 道也	高島市社会福祉協議会相談支援課
和田 彩		田中 裕人	高島市社会福祉協議会地域福祉課（事務局）
河野 至宏		西村 一真	高島市社会福祉協議会地域福祉課（事務局）

計画策定の経過

●中学生とのワークショップ・アンケート調査

マキノ中学校1・2年生を対象にアンケート、3年生を対象にワークショップを行いました。

「マキノの良い所」、「将来どんな町になって欲しいか」、「自分たちが住んでいて困っていること」、「自分たちが出来ること」について話し合ってもらいました。

今まで子ども達の意見を聞くことがなかったため、将来を担うこれからの方の意見を聞くことはとても新鮮なものとなりました。



●ニーズ調査

地域のイベントや、区・自治会のサロンなどでどのような町になってほしいか聞き取りを行いました。

イベントでは子どもから高齢者まで幅広い方の思いを知ることができ、またそこから世代が違うも、同じような思いを持っておられることが分かったりと新たな発見がありました。

●計画策定会議を計9回実施

計画策定会議を9回実施しました。2次計画の振り返りを行い、そこからの課題を出し合いました。そして自分たちの町がどのようにして欲しいかそれぞれの意見を出し合いました。

今までってきた中学生の意見や、地域の方の意見を取り入れ試行錯誤し、多くの地域の方の思いの詰まった計画が完成しました。



計画づくりを通して見えてきた課題

今回の計画策定では、今まで中々意見の聞くことが出来なかつた中学生や子育て世代の方にも、将来どのようなマキノになって欲しいのか情報を集めました。そんな中で子どもから高齢者まで共通して興味・関心・課題に思っていることは防災に関してでした。多くの世代の方が興味・関心を持っているが、今まで、防災について進めることができていなかつたという課題が見えてきました。防災に関わらず、誰かがしてくれるのではなく地域の方1人1人が意識し、助け合つて暮らせる「まち」にしていくべきだと思っています。



第3次マキノ住民福祉活動計画ができるまで

たくさんの中学生の声を頂きました

第3次計画策定までの流れ

第2次計画の振り返り

懇談会やサロン等で地域の声集め

マキノ中学生とのワークショップ・アンケート調査

全9回の計画策定会議で冊子構成の検討

デザイン会議で冊子構成の検討

マキノぬくもり福祉ネットワークを中心として地域のすべての方々と連携・協力して進めていきます。

マキノぬくもり福祉ネットワークの活動

たくさんの中学生の声を頂きました

中学生の声（ワークショップ・アンケートより）

- ・地域みんなが仲良く安心して暮らしている
- ・高齢者の方を大切にできる地域の取り組みが増えたらいい
- ・働く場所があり、若い人が増えるマキノになってほしい
- ・自分たちが大人になっても将来マキノで働き活性化したい

地元のみなさんの声（住民福祉こんだんん会より）

- ・サロンやカフェ、見守り活動が活発でありがたい
- ・役員のなり手が少しく今後が不安
- ・若者と子どもが増え活力がある地域になればいいなあ
- ・災害に強い地域づくりが必要



子育て中のお父さん・お母さんの声（子育てサロンより）

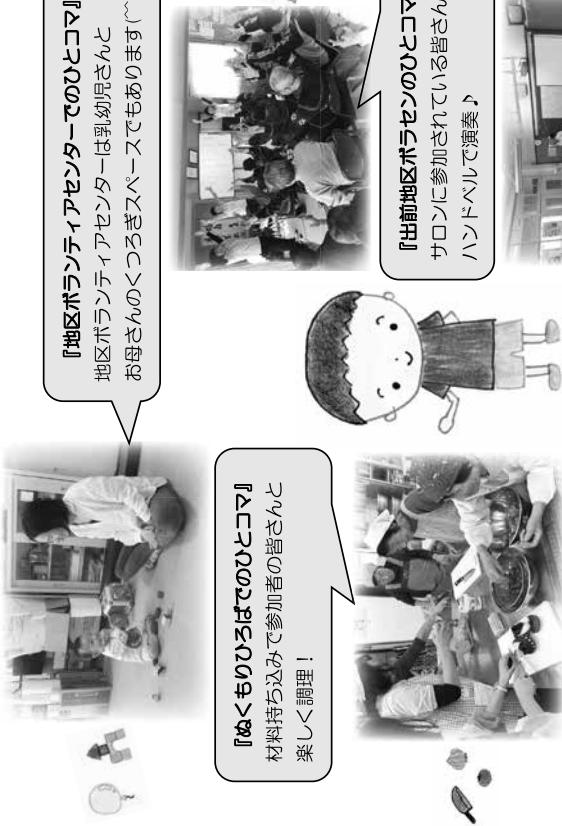
- ・お父さんお母さん同士でゆっくり話せる場があればなあ
- ・地域内で気軽に相談したり、ちょっとしたことを手伝ってもらえてたりできる場所があるとうれしい

福祉関係者の声（セーフティネット連絡会より）

- ・お互いに助け合い支え合える地域がもっと増えるといいなあ
- ・これから車に乗れる方はさらに少なくなるので新しい取り組みと買い物支援の方法を生み出す必要がある
- ・行政や住民・様々な団体や事業所がこれからはみんなと一緒に考えて取り組みを進めていく事が必要である



中学生とのワークショップ　住民福祉こんだんん会　計画策定会議



『地区ボランティアセンターでのひとコマ』
地区ボランティアセンターは男女児さんとお母さんのお母さんのくつろぎスペースでもあります(〜♪)



『ぬくもりひろばでのひとコマ』
材料持ち込みで参加者の皆さんと一緒に料理！



『ボランティアサロンでのひとコマ』
中学生と一緒に地域防災についてワークショップを通してみんななどうました。

・・・こんな活動をしています・・・

■地区ボランティアセンター「ぬくもりひろば」の開設

毎月第2火曜日 10：00～12：00 (はあとふるマキノ)内

毎月第4火曜日 10：00～12：00 マキノ健康福祉センター内

■学校等の空き教室を活用した地区ボランティアセンターの実施

■出前地区ボラセンの実施

区・自治会のサロンなどへ向い、ハンドベルやリズム体操などご要望に応じて実施します。

■ボランティアサロンの開催

地域の皆さんや中学生と一緒に「ボランティア」や「災害・防災」、「まちづくり」についてワークショップを通じて地域の事について考えます。

■セーフティネット連絡会の開催

地域住民の方と福祉関係者などが一緒に地域課題やこれから取り組みについて考えます。

※地区ボラセンとは…地区ボランティアセンターの路で、

①身近な相談窓口②ボランティアの活動の場③みんなの交流の場④みんなの居場所の機能があります。

今津住民福祉活動計画 「あいあいプラン」

「地域に関心を、心ゆたかに、安心して暮らせるまちづくり」を目指して
今津ふくしの会 代表 桂田敏男



今をさかのばること 10 年前、第 1 次住民福祉活動計画（あいあいプラン）は産声をあげました。その後、「あいあいプラン」に沿った活動は厚みを増しており、地域福祉やボランティアに興味のある個人や団体がつながり、着実に活動範囲を拡げ今日に至っています。

第 3 次あいあいプランの策定は 4 つのテーマを柱としています。「自然や文化にふれることができる」「生活しやすい環境を実現する」「多様な人たちがつながれる」「誰もが安心を感じることができるまちづくり」です。

わたしたちはこれから先、どんな町に住みたいと願っているのか？ 大切にしていかなければならないことは何か？ ということについて話し合いをおこない、時には悩みながらも思いを込めてこの活動計画書を作成しました。

今津ふくしの会は、オープンで出入り自由な住民組織です。地域のボランティアグループとネットワークを持ち、「こんなことをやってみたい！」という思いを形にしてきました。引き続き「地区サロン活動」「今中カフェ」「びわこウォーキング」「学校支援ボランティア」「子ども食堂」「花いっぱい運動」についてさらなる充実を目指して取り組んでいきます。また、新たな取り組みを立ち上げていくことも活動としていきます。

少子高齢化にもなう様々な社会不安がありますが、地域のひとり一人が主人公と考え、一緒に活動していきませんか？ より良いまちづくりを目指してネットワークがさらに拡がっていくことを願ってやみません。

策定メンバー（◎今津ふくしの会代表、○副代表、所属は 2019 年就任当初）

名前	所属	名前	所属
井上 正恵	今津地区ボランティアセンターより処	岩本 忠晴	浜分環境クラブ
上田 篓子	Café Cozy	大西 さなえ	今津地域民生委員児童委員 弘川区福祉推進委員長
岡上 稔	保育士・言語聴覚士	落川 昌子	高島市役所 健康推進課（今津支所）
◎桂田 敏男	福祉施設職員	木下 十九代	今津地区ボランティアセンターより処
○是永 宙	仲間の WA！ 結いの里・椋川	坂下 靖子	たかしま市民協働交流センター
白井 裕子	高島市役所 地域包括支援課	清水 幸子	今津地区ボランティアセンターより処
洲崎 トモ子	NPO 法人コミュニティねっとわーく高島	谷本 有梨佐	今津地域住民
辻 雅俊	高島市社会福祉協議会 相談支援課	鳥居 保典	株式会社トリイ
内藤 佑介	湖西地域働き・暮らし応援センター	中村 敏子	バリアフリーペンション「ととファミリー」 特別支援教育土スープーバイザー
早川 百合子	高島市社会福祉協議会在宅福祉課	廣田 延子	今津地区ボランティアセンターより処
福田 龍己	今津地域民生委員児童委員	古川 富子	浜分ヤナちゃんカフェ
古川 春美	川尻区福祉推進委員長	古谷 正子	今津地域主任児童委員
堀居 ヒロ子	今津地区ボランティアセンターより処	堀野 善信	高島市役所今津支所
三屋丸 誠人	今津地域内神社神主	森井 良磨	NPO 法人びわの音・西近江
和治 佐代子	NPO 法人子育ち・子育てサポート きらきらクラブ		

計画策定の経過

●第3次あいあいプランの策定会議・編集会議

令和元年7月から、準備会を含めた策定会議を8回開催し、5回の編集会議を経て、第3次あいあいプランを策定しました。策定会議は、2次計画の柱に基づいて、毎回情報提供者から思いや今津の課題等を聞き、参画者の豊かな発想につながりました。

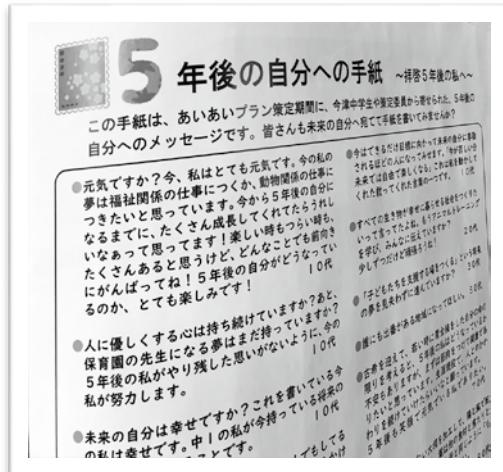


●セーフティネット連絡会

策定会議を兼ねたセーフティネット連絡会の1回目は、「誰もが安心を感じるまち」をテーマに協議しました。2回目は、新型コロナウイルス感染が拡大したため、中止せざるを得なくなり、その代替案として計画を実践につなげるためのアイデアをアンケートで募りました。

●第3次あいあいプランの完成

計画が5年計画ということもあり、「5年後の自分への手紙」を募集しました。10代から90代の方々の未来への思いを冊子に載せることができました。第3次あいあいプランは、策定会議・編集会議によって生まれたものですが、誰もが地域福祉に参加するきっかけとなればと考えています。



計画づくりを通して見えてきた課題

策定会議における情報提供者からのメッセージは、過去から現在に受け継がれてきた今津地域の魅力を再発見する必要性について学ぶ契機となりました。また、地域の見守りネットワーク活動、ボランティア活動、関係機関によるニーズを充足させるしくみなどを知る中で、地域住民の主体性の高まりが重要であることも、あらためて気づきました。住民福祉協議会や関係機関だけではなく、第3次あいあいプランを一つの指標として、誰もが福祉のまちづくりの当事者であることを自覚し、ネットワークを拡大して、連帯意識に基づく総合力を生み出すことが課題です。

「地域に関心をもち、心ゆたかに、安心して暮らせるまちづくり」

基本理念

۱۴-۱۵-۱۶

自然や文化にふれ

○自分たちのまちに関心をもどう！

- 1)今津名物！発掘・創作
2)親しみをもつために
まちのいろいろなところに名前をつけよう！

3)みんなでわくわく(こんな声が届けられました)
●外に向けて、なにか誇れるもの
●沼川の人たちの自然を目に平

生活しやすいく環境で

●心のゆたかさを育もう！

- 1)暮らし見直し再発見
 - 2)手間ひまを大事にしよう
 - 3)いろんな命と関わる

(こんな声が届きました) できるだけ食べ物を無農薬で作る道の駅や公井商店 気がいたとこ

多様な人たちがつながれる

●まちのあの人に関する心をもとう！
1)一緒にいる、一緒にする、一緒に感じ

- （こんな声が届けられました）

●積極的にいさしが出来るようになりたい ●話し相手になりたい ●協力する気持ちを大事にしたい
●困りごとに気づき、寄り添える人になりたい ●行事に参加されない人にも、誘いかけをしていきたい
●区民の集まる機会を増やしたい

～時間・空間・仲間～

2) 「おたがいさしま」が合言葉

●みんなでわくわく！コミュニケーションをひろげよう！

（こんな声が届けられました）

●外に向けて、なにか語られるものを作りたい ●隣近所で花づくりをしてみたい ●地図の良さを啓発したい
●保育園の人や地域の自然を目に平てくわくようにしたい

誰もが安心を感じるまち

●安心を感じるまちづくりを目指そう！

- あなたも主人公
 - 自分がやつたという手応え
～ボランティア サロン カフェ etc. ～
 - 地域と活動のつなぎあい

(こんな声が届けられました)
●ささやかなボランティア活動
●いつも笑いの中心でいられる
●楽しめる場所、笑顔になれる
●活動に参加する人ともっとふれ

あなたも主人公！

ビントは次のページに！

(こんな声が届けられました) ※2019年5月に開催された「今津地域住民福祉こんだん会」にご参加いただいた皆様のお声を集約したものです。



5

5年後の自分への手紙 ~拝啓5年後の私へ~

この手紙は、あいあいプラン策定期間に、今津中学生や策定委員から寄せられた、5年後の自分へのメッセージです。皆さんも未来の自分へ宛てて手紙を書いてみませんか？

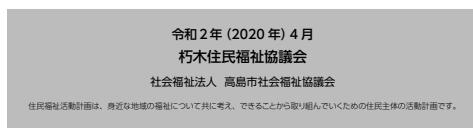
- 元気ですか？今、私はとても元気です。今の私の夢は福祉関係の仕事につくか、動物関係の仕事につきたいと思っています。今から5年後の自分になるまでに、たくさん成長してくれたらうれしいなあって思ってます！楽しい時もつらい時も、たくさんあると思うけど、どんなことでも前向きにがんばってね！5年後の自分がどうなっているのか、とても楽しみです！ 10代
- 人に優しくする心は持ち続けていますか？あと、保育園の先生になる夢はまだ持っていますか？5年後の私がやり残した思いがないように、今の私が努力します。 10代
- 未来の自分は幸せですか？これを書いている今の私は幸せです。中1の私が今持っている将来の夢は介護士になることです。 10代
- 学生だった頃のような恋、恋愛を大人でもしている～？一人でもやっていけてる？親に迷惑をかけない？人と楽しく、笑顔あり、辛いこともあると思いますが、自分らしく堂々と、生きてください。 10代
- 高校卒業できましたか・・・・ 10代
- 今は、大切な人がいます。その人とは、今どうしていますか？5年後は、いろいろな科学が進歩して、すばらしい物ができているんじゃないですか？ 10代
- みんなどっか違うとこに住んでいるんやろか～。自分は滋賀にいたいと思っているよ～。 10代

- 今はできるだけ目標に向かって未来の自分に尊敬されるほどの人になってみせます。「今が苦しい分未来では自由で楽しくなる」これは私を動かしてくれた救ってくれた言葉の一つです。 10代
- すべての生き物が幸せに暮らせる社会をつくりたいって言ってたよね。もうアニマルトレーニングを学び、みんなに伝えていますか？ 少しずつだけど頑張ろうね！ 20代
- 「子どもたちを支援する場をつくる」という将来の夢を見失わずに進んでいますか？ 30代
- 誰にも出番がある地域になってほしい。 50代
- 古希を迎えて、若い時に胃全摘をした自分の命の限りを考えると、5年後の私はどうなっているか不安もありますが、まずは筋肉をつけて健康でありたいと思っています。生涯現役で、人とのかかわりを続けていけたらいいなと願っています。 5年後も笑顔で元気でいる私であります。 70代
- 母は、食べきれない大根を加工して、陽と風で乾燥させ保存食にしたり、葉は他の食材と煮たりと無駄にしませんでした。私も母と同じように「もったいない」を思って生きていきたい。 5年後も野菜作りを楽しんでいたいです。 80代
- もしも元気だったら、花づくりをしているだろう。今津のまちを花いっぱいにしたい。 90代



イラスト：中村と

朽木住民福祉活動計画 「あいの郷プラン」



「安心して、いつまでも朽木の郷で暮らせますように！」

朽木住民福祉協議会
計画を策定するにあたり·····

第2次朽木住民福祉活動計画の策定時に10年後の理想の朽木を「みんなで支え合い生きがいをもって元気で安心して暮らせる地域」にしたいと願い、バックキャストという形で年次の計画を話し合いました。5年後の現在、見直してみると、なかなか計画通りには進んでいません。人口減少やそれに伴う課題が私たち住民の活動を樂々と追い越してしまったという感想です。ただ、「地域丸ごとの見守り」という点では大きく前進できたと考えています。

一つには、2017年に朽木ボランティアセンターの拠点をかねた居場所、「寄り合い処 くつき」を開設したこと。この事は

「安心していつまでも朽木で暮らすために3つの力（つなげる力・学び合える力・地域力）を育みます」の目標に大きな推進力を与えてくれました。いろいろなもの、こと、人がくついてくれるようにと願って付けた「くつき」という名前ですが、本当に多くの有難い繋がりができたと思っています。また開設以来毎月、あいの郷通信を朽木地域に全戸配布しています。

二つ目には、朽木診療所までの送迎や買い物のお手伝いができる外出サポート隊の結成ができたことです。公共ではない民間の組織の強みを活かし、より細やかな支援ができる基盤を作れたと感じます。この仕組みを大きく育てることができると良いなど願っています。

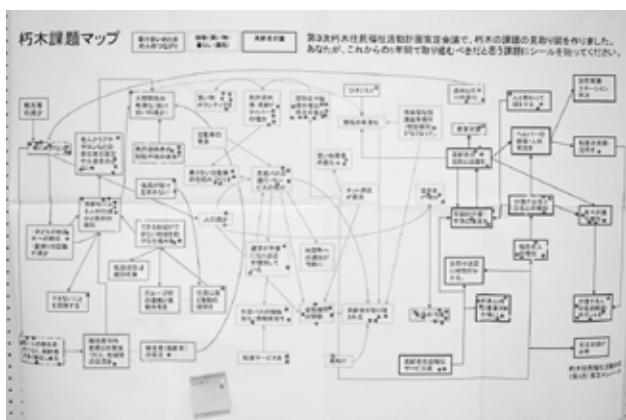
第3次住民福祉活動計画では、2次計画で残してしまった「防災」と「山間過疎地域」の課題も含めて、これまでに培った高島市内外の専門家の方々や朽木地域の住民の皆さんにお知恵を拝借し、課題解決に向けて、少しでも実現できる方策を模索しながら、これまでの活動のさらなる充実を目指していきたいと考えています。

策定メンバー（◎朽木住民福祉協議会代表 ○副代表、所属は2019年就任当初）

名前	所属	名前	所属
◎海老澤 文代	朽木住民福祉協議会	鎌田 智恵子	ゆたか会やまゆりの里
○小坂 一郎	朽木住民福祉協議会	三浦 千恵子	ゆたか会やまゆりの里
駒井 芳彦	朽木住民福祉協議会	角野 有美	高島市役所地域包括支援課
嶋崎 ひな子	朽木住民福祉協議会	多胡 章子	高島市役所健康推進課
森本 美幸	朽木住民福祉協議会	松井 長栄	高島市役所朽木支所
長谷川 紀子	朽木住民福祉協議会	木村 道徳	滋賀県琵琶湖環境科学研究所
澤田 龍治	朽木住民福祉協議会	王 智弘	総合地球環境学研究所
炭本 陸美	朽木住民福祉協議会	熊澤 輝一	総合地球環境学研究所
藤澤 悟	朽木住民福祉協議会	森田 一美	高島市社会福祉協議会在宅福祉課
中澤 勇太	高島市地域おこし協力隊	山崎 雅也	高島市社会福祉協議会相談支援課
大鉢 佳子	朽木民生委員児童委員協議会	宮田 早苗	高島市社会福祉協議会地域福祉課
俣野 吉治	朽木公民館		

計画策定の経過

3人の研究者に協力をいただき、作業部会も含め、14回の会議をしました。少子高齢化が急速に進む中、「今必要なコトは何か」、「この先5年を考えて検討することは何か」、「自分ごとにしてもらうためにはどうすればよいか」ということを話し合いました。難しいことであるが故、イラストを加え、わかりやすく伝えることを意識しました。



朽木の中の課題を出し合ったところ、それぞれの課題は、つながっていることがわかりました。この課題マップを、学校や地域の文化祭に張り出し、中学生および地域の方に関心のあるところにシールを貼っていただきました。たくさんの意見が重なった課題を計画の柱としました。

みんなで検討し完成した「第3次朽木住民福祉活動計画」を見て、策定メンバーの表情はとても明るく、優しい雰囲気が漂っていました。これから5年は、今までにない超高齢化社会となります。住民と専門職が協働し、「安心していつまでも朽木の郷で暮らせますように」を叶えられるように取り組みを進めています。



計画づくりを通して見えてきた課題



第2次朽木住民福祉活動計画策定時から、人口は250人減り、高齢化率は44%まで上昇してきました。人口減少により、金融機関の窓口利用が不便になったり、民間公共交通のバス路線も減少しています。将来は、今以上の少子高齢化社会になっていると思われることから、医療と福祉の連携や交通・移動の問題について深刻度が増していくと推測されます。課題はとても大きく重大なものではあります、第3次朽木住民福祉活動計画の策定をきっかけに、希望をもって、できる人とできるコトから1歩1歩進めていきたいと考えています。朽木住民福祉協議会は、おかげ様でたくさんの仲間がいます。専門職を中心とした「チーム朽木」が一丸となって「暮らしに安心をもてるように」「たくさんの笑顔が増えるように」を期待して、この計画を推進していきます。

これから約5年で重点的に取り組む分野

朽木でつながる
皆さんへ

安心して暮らせる朽木を
一緒に作っていきましょうか

20年後の朽木の人口は約900人になるという予測もあります
その時あなたはどこで何をしているのでしょうか?
できれば…
将来さみしい思いをせずに楽しく有意義に
生きたいと思いますよね

私たち朽木住民福祉協議会は
朽木のこれからを考える人を
増やし
つなげるための
場作りをもりあげます

さてと
何かしてみましょうか

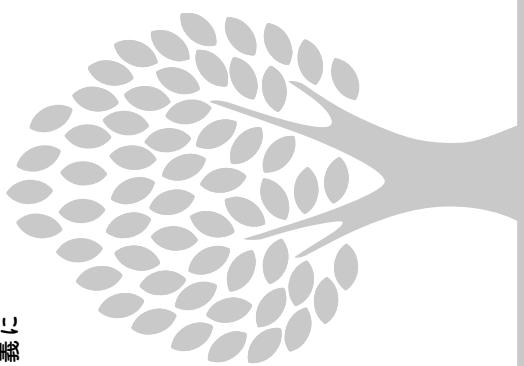
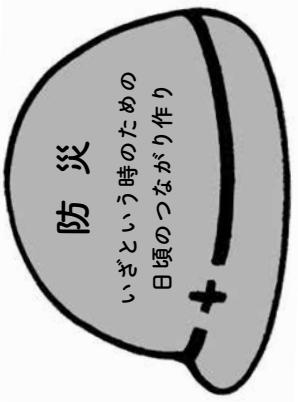
外 出

行きたい所に行ける
希望をかなえるために
みんなの声をつなげます

生 活
くらしの困りごとを
小さな支え合いの
つながりで安心へ

つなげる
つながる
朽木

Let's do it.



計画に基づく具体的な取り組み

外 出

- バスに乗って一日がかりの通院と買い物。バスでは帰ってこられない部活終わり。不便なダイヤ。朽木の移動の課題を行政につなげよう。
- 外出サポート隊の「まかせて会員」と「のせてつて会員」をつなげます。
- これから朽木の移動支援のあり方を考えるために、現状を調べて話す場につなげよう。

生 活

- 「どないしてる？」の声かけから、日頃の見守りをしよう。
- 今ある生活支援活動をつなぎあわせ、利用者が使いやすい仕組み（朽木方式）を作ります。
- 保健師さん、元看護師さんなどと気軽に健健康について話し、関係を深める機会を増やします。



情 報

- 老木で利用できる生活支援活動が一目でわかる「お助けメニュー」を作り発信します。



ふる里

防 災

- 「朽木のこれからを考える会」で話し合い、それぞれができる行動でつながっていこう。
- 老木のくらしを人のつながりの中で体験し、ふる里を大切に思える心を育もう。

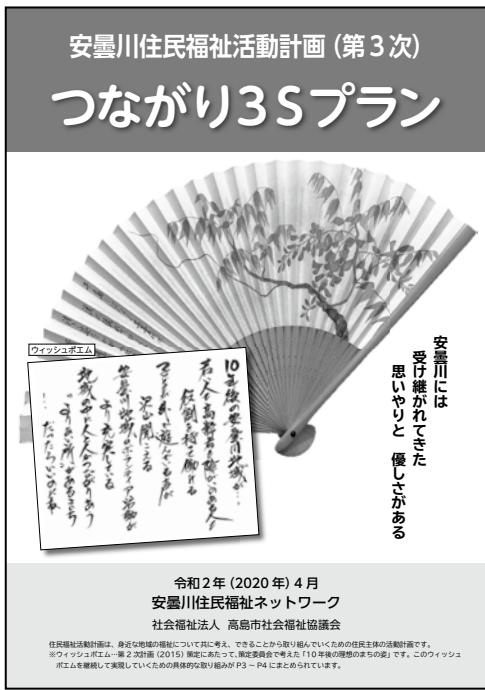


- 老木地域の実情を踏まえた防災活動について、区長、代理者、防災担当者、福祉担当者、災害ボランティアなどと共に考えよう。

朽木で活動する主な団体

朽木赤十字奉仕団	赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しているボランティア組織です。
朽木更生保護女性会	立ち直りの支援と共に、青少年の非行防止・健全育成並びに地域の子育て支援を行っています。
高島市老人クラブ連合会	「のばそう！健康寿命、担おう！地域づくり」をテーマに「健康」「友愛」「奉仕」の活動に取り組んでいます。
朽木支部	住民個々の相談に応じ、生活課題の解決にあたると共に、地域全体の福祉増進のための活動にも取り組んでいます。
朽木民生委員児童委員協議会	地域の防災力を補い、高めるために消防職員OB・消防団OBで、行政及び朽木消防団からの要請により支援する活動。
朽木防災ボランティア隊	高年齢者が働くことを通じて生きがいを得ると共に、地域社会の活性化に貢献する組織です。
シルバーハウスセンター	朽木地元の個人が参加し、他団体と連携しながら、地域の課題解決のために具体的な取り組みを進めています。
朽木支部	思いを持った個人が集まり、ボランティアで生活支援を行っています。
朽木住民福祉協議会	会員制でボランティアによる朽木診療所までの送迎と帰宅途中での買物や金融機関までの付き添いを有償で行っています。
生活支援ボランティア	
でんでん虫	
くつき外出サポート隊	

安曇川住民福祉活動計画 「つながり3Sプラン」



「安心で安全な安曇川のまちづくりをめざして」

安曇川住民福祉ネットワーク 代表 石黒徳市

安曇川地域は、この10年間、高齢者人口（65歳以上）は増加し、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は大きな減少の一途をたどり、総人口は減少しています。高齢化率は5年ごとに約4%ずつ上昇し、さらに、「高齢者のみ世帯」は増加し続ける傾向が止められません。

このような傾向の中、平成27年から令和元年の5年間は、「ささえあう」をテーマに第2次活動計画としました。「ささえあう」をテーマとして取り組んできたいろいろな活動の振り返りと、次の5年間の計画を、住民福祉ネットワークのメンバーと関係機関の専門職の皆さんと話し合ううち、いろいろな人たちや関係機関の方たちとの「つながり」がとても重要だと思い至りました。

多くの人達とのつながりは、安曇川ゆかりの中江藤樹先生の「五事を正す」に教えられている様に、人々と共に行動すれば何事も成し遂げられるとの思いから、第3次活動計画のテーマを「つながり3Sプラン」としました。

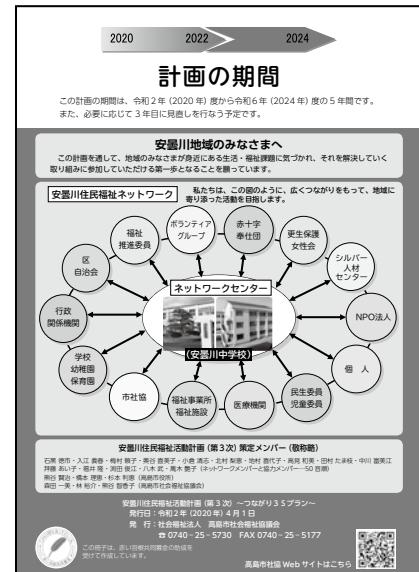
5年前の「10年後のウイッシュポエム」を、変わらない今後の5年のめざす行動指針にし、3つの「ささえあえる人のつながり」「育ちあえる仲間のつながり」そして、「災害にも強い地域のつながり」を作っていくことを活動目標を掲げることになりました。

第3次計画の活動開始頃から、新型コロナウィルスの世界規模での蔓延という非情な状況の中で、満足な活動を進めるために苦戦を余儀なくされています。一日も早くこの状況から脱却でき、「つながりづくり」の一歩をと願うばかりです。

策定メンバー（◎安曇川住民福祉ネットワーク代表、○副代表、所属は2019年就任当初）

名前	所属	名前	所属
◎石黒 徳市	安曇川住民福祉ネットワーク	杉本 利恵	高島市役所健康推進課
入江 義春	安曇川住民福祉ネットワーク	森田 一美	高島市社会福祉協議会在宅福祉課
梅村 賴子	安曇川住民福祉ネットワーク	林 裕介	高島市社会福祉協議会相談支援課
奥谷 喜美子	安曇川住民福祉ネットワーク	熊谷 智香子	高島市社会福祉協議会地域福祉課 (事務局)
小倉 清志	安曇川住民福祉ネットワーク		
北村 梨恵	安曇川住民福祉ネットワーク		
地村 喜代子	安曇川住民福祉ネットワーク		
高見 和美	安曇川住民福祉ネットワーク		
田村 たま枝	安曇川住民福祉ネットワーク		
中川 富美江	安曇川住民福祉ネットワーク		
○拜藤 あい子	安曇川住民福祉ネットワーク		
福井 隆	安曇川住民福祉ネットワーク		
八木 武	安曇川住民福祉ネットワーク		
萬木 艶子	安曇川住民福祉ネットワーク		
渕田 俊江	安曇川赤十字奉仕団		
熊谷 賢治	高島市役所 安曇川支所		
橋本 理恵	高島市役所地域包括支援課		

つながりのネットワーク関係図が書かれて
ある「つながり3Sプラン」の裏表紙



計画策定の経過

令和元年8月26日に実施した第1回策定会議を皮切りに、計7回の話し合いを行い、新しい計画づくりをすすめていきました。

第1回策定会議を迎える前に、現在活動をされている安曇川住民福祉ネットワークのメンバーより、これまでの活動の評価をしていただきました。

第3次 安曇川住民福祉活動計画を策定するにあたって

安曇川住民福祉活動計画(第2次)
ささえあい4Sプラン

令和元年8月22日(木)
住民福祉ネットワークメンバーにて
計画の振り返り実施

地域共生社会

支え手側と受けて側に分かれるのではなく、地域の住民が役割を持ち、地域コミュニティを構成して協働して助け合っている。



安曇川地域の現状について

- ◆地域の課題って？
- ◆生活するうえの困っていることや課題はあるのかなあ？
- ◆こんなところは素晴らしいよね！

地域で暮らす
専門職として

住民福祉協議会とはなにか、社会がこれから目指す「地域共生社会」という「だれもが自分らしく活躍できる地域」のなかで、地域住民として、また、専門職としてどんな役割があるのかなど、策定会議で学ぶ時間も持ちました。

そして、安曇川地域の課題や問題と照らし合わせ、具体的な活動について意見を出し合い、一步づつ策定にむけ踏み出しています。

令和2年2月5日、策定会議を重ね、策定メンバーよりいただいた意見を反映させた「つながり3Sプラン」の最終案がついに完成！

最終の策定会議は、策定メンバー以外に専門職や地域の福祉に携わる方にもきていただき、「セーフティネット連絡会」として開催、つながりを大事にしていく、という計画の大きな柱に共感を得ることができました。



計画づくりを通して見えてきた課題

地域には様々な人が暮らしています。みんな平穏に暮らしているようにみえますが、生活しづらさを抱えている人たちが増えてきていることに、この策定会議の中で改めて感じたり知ることができました。

困ったこと、悩んでいること、一人ではどうしようもないことなど、ちょっと話ができる場があるとそこから解決方法が見いだせる…、人と人がつながれる場所として安曇川住民福祉ネットワークは、定期的にネットワークセンターを開所し安中カフェを継続して行っています。顔の見える関係づくりができるような場を、安中カフェだけでなく、安曇川地域のあちらこちらに広げながら、安心安全で過ごせる安曇川地域を作つて行きたいと考えています。

第3次安曇川住民福祉活動計画（令和2年度～令和6年度）

「安心で安全な安曇川のまちづくり」つながい3Sアーチ

S ささえあえる
人のつながいづくり

S 育ちあえる
仲間のつながいづくり

「つながり3Sプラン」

安曇川は、近江聖人中江藤樹先生の誕地でもあり、先生の教えは後世に受け継がれ、今も思いやりと優しさがあふれています。

先生の教えである「五事を正す」を大切にし、ひとりではなく地域の「五事」を大切にし、ひとりではないことも、いろいろなひとつながれば、何事も成し遂げられるという思いから「つながり3Sプラン」を策定しました。

「五事を正す」

「貌」(まほ) なごやかな顔つきをし、
「言」(げん) 思いやのある言葉で話
しかけ、
「視」(し) 澄んだ目で物事をみつめ、
「聴」(ちょう) 耳を傾けて人の話を聴き、
「思」(し) まごころをこめて相手のことを思いやること

安曇川地域の災害危険個所を確認し、ネットワーク通信で発信しもつ。

すべての世代の、困りひとを抱える人を、地域で支える取り組みを進めもつ。

防災出前講座を通じて、区・自治会ひとのまえ合ひ(愛)の意識を高めもつ。

「わくわくサラダ」の運営支援を通じて、地域の障がいに対する理解を広めもつ。

「あどかわふれあい子ども食堂」の運営を通して、地域の子育てを応援しもつ。

「安中カフェ」を通して、中学生と共に、福祉について学ぶ機会を作ろう。

「介護を考える」「アローラ」や「あんじゅカフェ」を通して、介護や認知症等の理解を進めもつ。

「あどかわボランティアまつり」等で住民交流を深めボランティア精神の播り起こしや育成を進めもつ。

安曇川住民福祉ネットワークセンター
(安曇川地区ボランティアセンター)

居場所・交流拠点

誰もが気軽に相談できる場所として、つながれる交流拠点

相談 身近な心配事や困り事を気軽に相談できる場

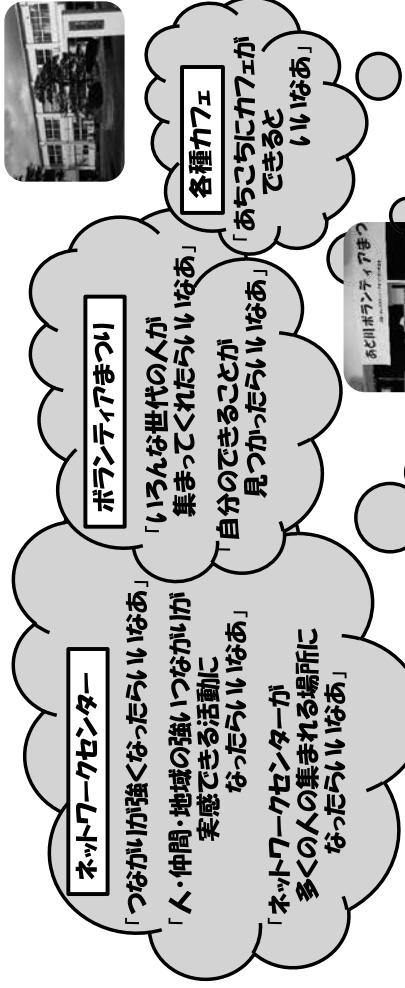
連携 さまざまな団体(住民組織含む)と保健・医療・福祉・教育との連携を強化

藤の木の根っこを土台に、葉っぱを取り組みの柱として、藤の花のようにつながりながら活動を推進していきます。

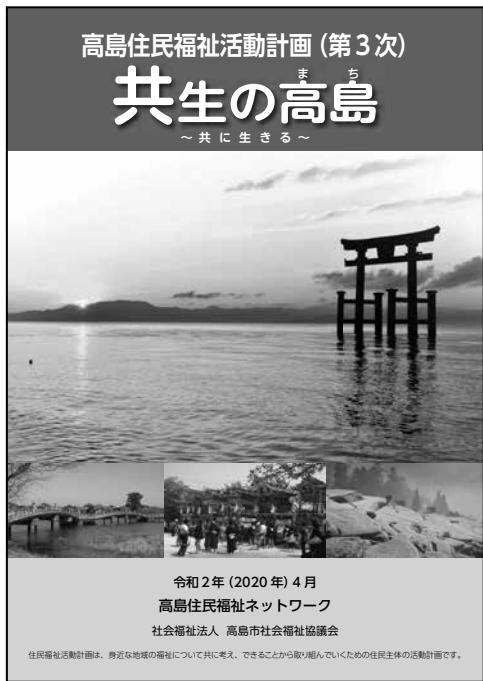
未来へ…

安曇川住民福祉ネットワーク 10年の歩みとこれから

活動拠点：安曇川住民福祉ネットワークセンター（安曇川中学校 北校舎1階）



高島住民福祉活動計画 「共生の 高島」



「地域の輪で誰もが安心して暮らせるまちづくり」をめざして

高島住民福祉ネットワーク 代表 村田 良雄

第2次住民福祉活動計画では、誰もが安心して暮らしていただくために、生活支援に重点を置いた取り組みを進めてきました。1人暮らしの高齢者等に月2回お弁当を届けることで、安否確認をし、お願いカードをつけて小さな生活課題にも対応していく活動や、地域の空き家を活用して、誰もが気楽に寄れる「居場所」として週1回のサロンの開催、さらに、地域でこども達を育む場として、月1回子ども食堂などを行ってきました。

近年、人口減少・少子高齢化・世帯の単身化が進むなか地域でのつながりも希薄化してきています。しかし、多くの人は住み慣れた地域でその人らしい生活を送りたいと願っています。こういった状況を踏まえ、第3次計画では「つながりを大切にして誰もが安心して暮らせるまちづくり」をテーマに掲げました。

前回の計画で行ってきました活動の更なる充実を図るとともに、新たな日常生活のお手伝い・買い物支援・移動支援ができる体制づくりや、ゴミ出しなどの近隣所での助け合いの輪や、気付きによる見守りの輪を広げていきたいと思っています。さらに、将来を担うこども達との交流を進めるため学校との連携を深めることや、居場所づくりの拡充、災害に備えた防災・減災の意識作りにも取り組む予定です。ただ、当面はコロナ禍で活動が制限されますが、感染防止に十分配慮しながら進めていきます。

高島地域が住みよい町になりますよう高島住民福祉ネットワークは頑張りたいと考えておりますので、地域の皆様にもご協力頂きますようよろしくお願いします。

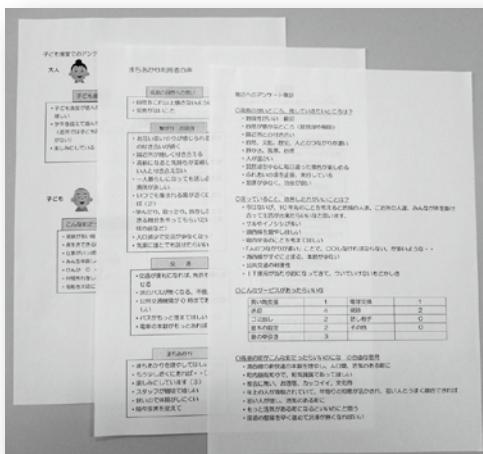
策定メンバー（◎高島住民福祉ネットワーク代表 ○副代表、所属は2019年就任当初）

名前	所属	名前	所属
◎村田 良雄	高島住民福祉ネットワーク	加藤 幸江	高島地域民生委員児童委員
○竹中 寛	高島住民福祉ネットワーク	中村 眞奈美	地域学校協働活動推進員
○松本 かおり	高島住民福祉ネットワーク	白崎 田鶴子	CAPしがスペシャリスト
一圓 守造	高島住民福祉ネットワーク	澤 勝次	社会福祉法人理事
兼田 初恵	高島住民福祉ネットワーク	斎藤 祥子	高島市役所地域包括支援課
吉村 馨	高島住民福祉ネットワーク	森 早苗	高島市役所健康推進課
廣瀬 渉	高島住民福祉ネットワーク	白井 一義	高島市役所高島支所
田中 静子	高島住民福祉ネットワーク	杉島 隆	高島市社会福祉協議会地域福祉課
林 喜代子	高島住民福祉ネットワーク	熊谷 智香子	高島市社会福祉協議会地域福祉課
林 俊博	高島住民福祉ネットワーク	鈴木 ひろみ	高島市社会福祉協議会在宅福祉課
西浦 俊治	高島住民福祉ネットワーク	細川 剛	高島市社会福祉協議会相談支援課
林 ヤス子	高島住民福祉ネットワーク	吉田 利子 (事務局)	高島市社会福祉協議会地域福祉課
西田 正美	まちあかり子ども食堂ボランティア		

計画策定の経過

7回の策定会議と数回の作業部会での話し合いを重ねてきました。

今までの活動を振り返り今後の展開を検討したり、第2次からの5年間の状況変化に伴う新たな課題などをそれぞれの立場からご協議頂きました。



皆様からご意見を頂けたことで第3次の計画を策定することが出来ました。計画を実行に移していくためには様々な人や機関との協働が必要になります。住民と専門職で作るセーフティネット連絡会でも協力を呼びかけ、始動に向けた体制も構築していきました。

検討の中で、地域に暮らす様々な世代の声を反映していくことになり、子ども達や高齢者、子育て世代や現役の商店主の方たちにアンケートを行い、「良いところ」「困っていること」「高島がこんな町だったら」をお聞きして多くのご意見を頂きました。



計画づくりを通して見えてきた課題

高島地域の高齢化率は市全体の平均と近いですが、山手と勝野周辺で高い高齢化率を示しています。単身化が進んでいる影響で、すぐ近くに商店街があっても行けない、ゴミ出しが出来ないなどのごく身近な生活の困りごとが顕著な課題として表れてきています。アンケートで一人暮らしの不便を補うようなことを地域に求められている点は、2次計画と比べて大きく変化したところです。また、防災などの大きな課題も他人ごとではなくなりました。ですが、住民福祉ネットワークだけで対応できることではなく他との連携が必須で、全体を通して、つながって協働しないと解決出来ない課題が多くなってきました。

第3次 高島住民福祉活動計画

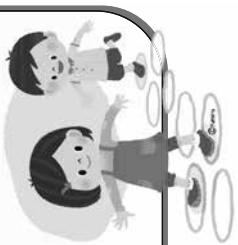
計画期間 令和2年度～令和6年度

地域の輪で誰もが安心して暮らせるまちづくり 理念



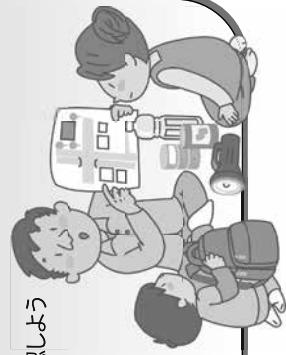
つながりを大切にしたまちづくり

- ・子どもが気軽に集まれる場所を広げていこう
- ・「まちあかり」を中心には、世代間交流を進めよう
- ・「趣味の会」や「健康教室」を開催し、生きがいづくりや交流を進めよう
- ・地域に出かけて、身近な居場所を増やせるよう応援していく
- ・学校との連携を深め、子ども達との交流を進めよう



防災、減災を意識したまちづくり

- ・常に要支援者の支援体制を確認しておこう
- ・広域避難所に行くまでの一時避難所と一緒に確認しよう
- ・災害に備え、日ごろから「声かけ」を大切にしよう
- ・家庭内でも「防災意識」を高めよう



つながって ふれあい 助け合いの まちづくり

スローガン

安心して暮らせるまちづくり

- 住民福祉ネットワークでの配食活動で、配達地区を広げて見守り活動を充実させよう
- 日常生活をお手伝いするサポーターの参加を呼びかけよう
- 生活支援(ゴミ出しなど)は、隣近所での助け合いを広げていこう
- 気づきを大切に、公的機関とも連携し見守りの輪を広げていこう
- 普段から声かけや挨拶をして、安心して住めるまちにしよう
- 買い物支援や移動支援ができる体制づくりを進めよう
- 暮らしさを抱えた方の社会参加を応援しよう



配食活動の経過と広がり

配食活動は、高島住民福祉ネットワークの活動の原点です。
すべての活動は、ここから始まりました。

現在の活動（令和2年1月現在）

高島地域34地区の内、20地区にお届けしています。

対象は40歳代から90歳代まで51名の方に、月2回お届けしています。
ボランティア数は、調理15名、配達12名、書類12名、書類1名の28名です。
お米や野菜などの食材は、地域の皆様の協力に支えられています。

つながる

- 手紙ボランティアにお手紙を付けてもらう
- 誕生日に、更生保護女性会から小さな花束を
プレゼント
- 保健師やケアマネージャーとも情報共有し、
安心もお届け

心にも栄養を
届けられたらいいね！

暮らしづらさを緩和する取り組みとして「食べる」という行為を、
年齢や家族構成に関係なく必要と思われる方に届けています。

- 食生活の支援
- お届けすることで孤立防止や安否確認
- 暮らしの困りごとを拾い、暮らしのサポートを行う

平成23年度 10月～ 配食開始

暮らしづらさを良くする
活動ができれば・・・
食べるこって大事よね！

第2次計画（平成27年度）

「10年後の高島地域がこうだつたらいいのにね」と夢を語りました

支えあい
助け合い

配食活動

第1・第3水曜日 1食300円

平成23年度 住民福祉ネットワークを組織化
平成22年度 第1次住民福祉活動計画策定

高島住民福祉ネットワークの歩み

第3次計画（令和2年度）

「これで
つながり

子ども食堂を開設
地域で子どもたちを育む場として「まちあかり」で開設しています。
周辺の子どもたちを中心、若いお父さんやお母さんも来られて、みんなで音遊ひやゲームをして楽しく交流されています。

第3土曜日 11:30～13:30

居場所
つながり

参加費 小学生 100円
中学生以上 200円

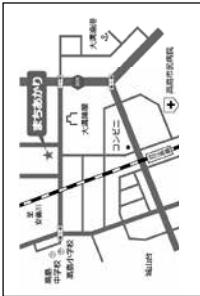
お休み処「まちあかり」を開設

地域の空き家をお借りして、誰もが気軽に寄れる「居場所」としてカフェを開いています。
1週目には、終了後に「わたしあう」さんが、買い物と食事を送迎付きで支援いただき、希望者が利用されています。自宅までの送りもあるので、重い買物もできて大変喜ばれています。
3週目には、市民病院のリハビリの先生から体操を指導してもらい健康づくりも行っています。また、この週には昼食も提供していて、皆さんでの食事を楽しんでもらっています。

毎週火曜日 10時～12時 参加費：100円 昼食代：300円

第4次計画（平成29年度）

「（地域活性化）まちづくり」で、初めての1歩を踏み出しました



第1次計画（平成22年度）
「さあはじめよう わたしたちの福祉のまちづくり」で、初めての1歩を踏み出しました

※計画の詳細につきましては高島市社会福祉協議会のホームページにて閲覧いただけます。 <http://www.takashima-shakkyo.or.jp>

新旭住民福祉活動計画 「新旭やすらぎプラン」



「みんなが福祉でつながる 地域づくりをめざして」

新旭住民福祉協議会 代表 藤原 実

第3次活動計画の策定は過去2回の計画10年の活動を踏まえ、自身や家族、その他関りのある方々との“ふくし”とは何かを、地域住民全員で考えることができる“場”を提供できる計画を策定しました。

計画では…

・ボランティアを必要とする人とボランティアに関心のある方々を繋げるシステム作り

・地域の声を聴き、課題を共有し、協働して解決するしくみ

・子どもの未来を見据えた活動の展開

を中心として活動し、多くの住民のみなさんに活動に参加していただくことによって実現できる計画を目指しています。

また、団体としての持続可能な活動も行い

・農作物（ふれあい農園で採れた野菜など）の販売 →活動資金捻出

・民間助成金の活用や地域の企業・関係団体との協働 →活動資材調達

・一緒に活動していただける方を募集 →活動人材確保

を目指します。

通年事業としては、毎年たくさんの方々にご参加・ご協力いただき好評をいただいている「新旭ふくしまつり」を継続して開催します。様々な立場の方々が触れ合える場所として、大切な機会とどうえ、より多くの方々に参加いただけるよう協議してまいります。また、活動状況をタイムリーに報告するための、SNS（フェイスブック）を新たに活用しての情報発信と、機関紙「たいよう」を引き続き発行し皆様に活動を周知できるよう努めてまいります。

皆様のご理解ご協力があつての活動です。“楽しく活動！”をモットーに活動しています。何かの機会に目に触れることがあれば他人事と思わず是非ご参加ください！

策定メンバー（◎新旭住民福祉協議会代表、○副代表、所属は2019年就任当初）

名前	所属	名前	所属
◎藤原 実	NPO 法人たかしまプロデュース 代表	山川 好美	
○中西 信樹		中村 和樹	新旭民生委員児童委員協議会（～2019.11）
桑原 熟	新旭子ども食堂運営委員長	梅川 町子	新旭民生委員児童委員協議会（～2019.11）
	赤十字奉仕団高島市地区委員長	佐々木 セツ子	
谷 仙一郎	NPO 法人元気な仲間 代表	中村 泰慧	チャレンジクラブ
森田 一男	大師山ボランティアサークル 代表	安原 翼	チャレンジクラブ
	新旭駅前ふれあい食堂 代表	生駒 照之	
平楽 康男	高島市青少年育成会議 会長	三田村 治夫	新旭地域学校協働活動推進員
木下 八重子		大藤 耕平	新旭民生委員児童委員協議会（2019.12～）
宮本 久美		小林 正則	新旭民生委員児童委員協議会（2019.12～）
富田 たつ子	新旭赤十字奉仕団	早川 百合子	高島市社会福祉協議会在宅福祉課
川口 栄子	新旭更生保護女性会	松本 道也	高島市社会福祉協議会相談支援課
桑原 昇一郎		西村 一真	高島市社会福祉協議会地域福祉課（事務局）
内田 つや子	新旭エルダー女性の会	西川 利政	高島市社会福祉協議会地域福祉課（事務局）

計画策定の経過

- 計画策定会議を計8回実施。

8月から2月までの7か月間に合計8回の計画策定会議を実施しました。

計画策定会議では新旭住民福祉協議会メンバーを中心として、協議内容毎のゲストスピーカーと共に、地域の現状や課題についての共有やこれから5年先の新旭地域のあるべき姿について話し合いを行いました。



第1回セーフティネット連絡会（R1.9.19）

第1回セーフティネット連絡会では、市社会福祉課くらし連携支援室・市社協相談支援課から市内におけるひきこもりや8050問題についての現状と課題について話題提供を頂き、多様な居場所、交流の場を持つことの必要性について議論を深めました。

第2回セーフティネット連絡会（R2.2.18）

第2回セーフティネット連絡会では1年かけて検討を進めてきた第3次住民福祉活動計画（案）をもとに、今後の協働について検討を進めました。

新旭住民福祉協議会がこれまで進めてきた活動をもとにこれから5年先の地域のあるべき姿と活動について様々な意見を頂き、計画に反映することができました。



計画づくりを通して見えてきた課題

新旭地域の高齢化率は35.1%（令和2年4月現在）で市内の他の地域と比べると比較的若い地域ですが、6年前（26.2%・平成26年4月現在）と比べると格段に高齢化率が上昇しており、地域ごとにみると高齢化率が40%を超える地域も現れてきています。しかし一方で駅前周辺の地域では若い世代の転入が多くあり高齢化率が20%を切っている地域があり2極化が進んでいます。高齢化が進む地域では担い手不足が深刻化しており、地域の皆さんでどう地域を支えていくのか、地域づくりをどのように進めるのかが課題になっており、高齢化率が低い地域では従来から住んでおられる住民と新しく住居を構えた住民との協力体制づくりが課題になっています。

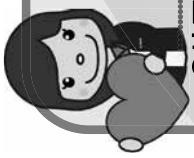
こうしたことから住民福祉協議会が、区・自治会に寄り添いながら一緒に考え、活動を支えていく仕組みが必要となっています。

みんなが福祉でつながる地域づくり

ボランティアでつながる 「お互いさま」づくり

○地区ボランティアセンターを中心的に、
誰もが参加できる仕組みづくりを
進めます。

(地区ボランティアセンターは地域のみさんの居場所、
気軽に相談のできる場所、ボランティア活動の紹介する
場所として設置しています。)



子ども若者が 真ん中のまちづくり

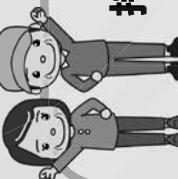
○子ども若者の誰もが楽ししながら
地域の活動に参加できる仕組みを
作ります。



新旭ふくしまつり

様々な立場の人たちが集え、福祉についてふれあい、考えることが出来る場として継続して開催します。

それぞれの活動がつながり
あって活動の輪をひろげ、
新旭のみなさんが支えあえる
まちづくりを目指します。



持続可能な活動づくり

○活動助成金の活用と支援者づくりを
進めます。
○資金、資材、人材を確保する
仕組みづくりを進めます。

広報活動 SNSの活用

○地域のみなさんと協力し
話しあえる場づくりを
進めます。



支えあえる 地域づくり

○地域のみなさんと協力し
話しあえる場づくりを
進めます。

第2次の活動から・・・つきへの大がり

